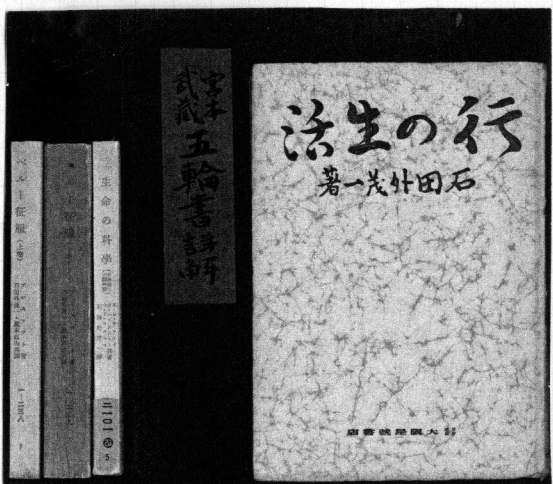


石田外茂一 いしだがいち 評論家、英文學者、俳人。明治三十四年五月十六日石川縣金澤市小立野生れ、昭和五十二年八月二十日歿（一九〇一七七）。號三則行堂主、學道人、王行人。第四高等學校文科を経て、大正十五年東京帝國大學文學部英文學科卒。爾後東京開成中學校教員を終戦近くまで務めた。この間かた日本宗教史の研究に入る。昭和十五年落血し、その病中體驗記『カ行の生活』（昭和十六年十月十八日大阪屋號書店）、續篇『カ靜の行』（昭和十七年刊）を著し、増健法小冊子『カ禮法増健正學』結三則行』（私家版）を作つた。一方自己流の書畫を能くし、幸福祈願に大黒天の樂燒を造つて頒布するほどした。他に、『宮本武藏五輪書詳解』（昭和十八年六月十日大阪屋號書店）を書き、プレスゴツト著『ペルー征服』（眞木昌夫共譯、上巻・昭和十六年十一月二十日、下巻・十八年八月十九日改造社→改造文庫）、H・G・ウェルズ・ハックスリー C・P・ウェルズ共著『生命の科學へ生物進化の證據篇』（昭和十七年十月）一九九日改造社→改造文庫）等を譯刊。その後小學校の代用教員を出願して家族と共に富山縣五箇山へ移住した。二十四年からは縣立富山高校の英語教師を務め、翁久允主宰『高志人』同人となり、『五箇山民俗覽書』を高志人社から出版、また考古學の見地のらり日本古代史を著した。



四十二年東京へ戻り、晩年は獨特な二面造りひそしの勤人だ。季刊雜



誌『銀花』第二十七號（昭和五十一年九月二十日）文化出版局（公）特
集・石田外茂「孤塊狐言」がある。